

6. [その他の課題について]

木次町会場（チェリヴァホール）

Q44：この会場（2階ホール）では「懇談会」というのには上から指図されている感じで好ましくない。3階の会場でもいい。

今日の資料は、今読めと言われてもすぐには読めない。できれば事前に配ってもらいたい。

Q45：明るい住みよいまちづくりという話があったが、「住みよい」と「暮らしやすい」は違うと思う。暮らしやすさは利便性であり、学校が近い、医者が近い、スーパーが近いなど。住みよいまちづくりはプラス人間関係が加わる。この人間関係をいかに良くしていくかが課題。それには人の悪口を言わないことが大事と思うがいかがか。

A：おっしゃるとおり。そんなまちづくりが実現できるよう、普段の取り組みを市民の皆さんとともに築き上げていく。今現在も地域自主組織によってそうしたまちづくりが交流センターを中心に着実に進んでいる。（市長）

Q46：地域自主組織で防災事業部を作り、避難訓練をしたり、避難所を決めてもらったりしたが、自治会内で早めに逃げましょうという話をすると、そういうときに誰か声掛けしてもらえるのか、という意見が出る。我々はそういうときになかなか判断して声をかけにくい。市からの告知放送による注意喚起はできるだけ早く流してほしい。

A：危機管理対策は一番の重要施策であり、地域自主組織にはぜひ自主防災組織を作ってください、自分たちの地域は自分たちで守ることを自覚できる活動をしていただきたい。市としては、夢ネットやその他さまざまな広報を通じて情報発信していきたい。また皆さんからの意見をフィードバックしてお互い理解を深め合いながら災害対策に取り組んでいく。（市長）

Q47：機関車について、保存することで検討しておられるらしいが、できれば木次駅周辺に移して屋根をつけて、トロッコ列車に乗られる県外の人に見てもらえれば。例えばインターネットで世界に発信して反応が起きている。管理について、熱心な人たちのボランティアがあれば、うまくいくのでは。

A：機関車については、アスベスト問題が出たために覆いをして隔離した。管理してもらっていたOBの方も十分な面倒が見れなくなった。昨年の新市地区の市政懇談会において、「老朽化しているがどう考えるか」という話をいただき、部内で協議した結果、解体撤去しようということになり、昨年の9月議会で350万円の解体撤去費を計上した。その後、マニア・OBの方を中心に存続要望が出たため議論をし、議会でも理解いただき減額予算で解体撤去をやめ、議会の教育民生常任委員会において存続が採択された。振り出しに戻った形なので、今後どのような形で活かしていくのか十分協議していく必要がある。元の状態に戻すにはかなりの経費がかかる。また誰がどのような形で管理するのか。JR木次駅前に陳列して地域活性化につなげるにも、かなりの経費がかかる。25年度当初予算には盛り込むことになるので、あまり時間はないが残された期間十分に相談してあるべき方向を見出していきたい。（副市長）

Q48：近い内に選挙があるが、投票所の入場券が世帯の人数分送られてくるが、松江市のように1つのはがきに世帯全員分書いてあれば経費節減につながるのでは。

A：選挙について、雲南市の入場券は1人1枚にしている。松江市の例を言ってもらったが、投票所における

スムーズな投票、また経費節減の意味でも先進事例を勉強させていただきながら対応できればと思う。もう少し時間をいただきたい。(総務部長)

Q49：歩道と車道を分離する縁石の敷設について、家の入口にいっぱいまで敷き詰めてあることが多く、車が入りにくく擦ったりする。慣れている人はいいが、たまに来る客などは危ない。この縁石の敷設には規定があるのか。縁石の間隔について利用者へ了承は取っているのか。希望すれば縁石の間隔を広くしてもらえるのか。できるとすればどこにお願いすればいいのか。

A：縁石については、歩行者を車から守るのが第一前提であり、車の通行量、歩行者の量、公共的な施設等、一定の基準を設けている。縁石の切り下げ幅については、道路に面している車庫の場合は即道路に出るので、安全上あまり広い幅は取らない。一般的にはひとつの基準として4mとなっている。その敷地がいろんな用途に使われ、大きな車が入り出す場合は8mくらいになる。希望すれば広げられるかということについては、交通安全の観点から基準があり原則的には難しいが、利用形態によっては若干の変更は可能。当然縁石を施工する段階で協議させていただき決定する。相談場所については、道路管理は県道は県、市道は市役所建設部業務管理課が担当している。(建設部長)

Q50：原子力発電の問題について、3.11を受けて原発依存から脱却しなければならない。その施策として、三洋電機のソーラーがあるが、その他にも例えばLEDなど、節電方法がある。そういったものについて拡大助成をする気があるのかどうか。

福島県のがれき処理について、島根県内でも2～3市町村が検討しているようだが、雲南市としてはどういう視点で取り組んでいるのか。同じ日本人ということで痛みを分かちあう必要がある。何か対策が必要ではないか。

教育について、頭のいい子に育てたいのか、社会力・地域力のある子に育てたいのか。過疎地域として医師として育った子が雲南病院に入りたくなるような土壌づくりを。自治会長協議会を見ても、交流センターを見ても、雲南市内でも非常に温度差がある。今後行政として目線を低く持ってほしい。

A：原子力発電について、代替エネルギーはすぐには難しいので、節電対策に取り組むのがまず第一歩。電源が不足すれば太陽光発電、水力発電、地熱発電、液体天然ガスの火力発電の作り直しなどが問われる。そういったものを見極めながら市としてできることから少しずつやっていき、ゆくゆくは原発のない社会の実現が目指されるべき。

がれき対策については、もちろん受け入れなくてはならないとは思いますが、引き受けた場合のがれきの処理方法は、焼くか、埋めるかだけである。雲南市・飯南町には可燃物を燃やす施設がなく、一般可燃物は固形燃料にしてほとんどを北海道の王子製紙に送っている。セシウムを含むがれきを固形燃料にしたら王子製紙に引き取ってもらえなくなる。埋める方式については、木次と加茂の施設において漏水防止シートを張って管理しているが、あと10年～15年で満杯となるため、余力がない状態である。(市長)

A：今後の教育のあり方考え方について、基本的には子どもたちが志を持って、夢を持って、まずは人生を豊かに生きる。その舞台が雲南市であったり、市外であっても、夢や自信を持って激しい社会を生き抜く力を目指していきたい。バランスが大事であり、確かな学力、豊かな心、健やかな体が必要。知・徳・体のバランスの取れた子どもをということで、雲南市の特色ある教育プログラムとして夢発見プログラムがある。これは幼児から中学校卒業までに最低これだけの力をつけたいというプログラムと、学校独自のプログラムを中学校を中心にしている。大きくはキャリア教育とふるさと教育。知・徳・体のバランスを考えた教育を進めていきたい。そのためには地域の中で子どもたちがさまざまな年齢層の方とふれあい交流し、その中で教えてもらいながら家庭・学校・地域・行政の連携・協働が必要。そのための仕組みづくりとして、教育支援コーディネーター、地域コーディネーターを設置している。こうした制度によってさらに充実した教育を進めていきたい。(教育長)